

島原湧水さらく

トレイル

発行日：二〇〇九年三月三〇日
 ※無断転載・引用はご遠慮下さい。
 協力：島原の多くの方々、島原商工会議所、島原市
 実測・構成・編集：松尾卓次、近藤一郎、大野聡子

水の声

ぽちやぽちや。こんこん。

どお。

じゃああじゃあああ...

じゃぽん！

ぽこぽこ・ぽっちゃん。

ぽっつぽっつ。

ざぶざぶ。

じゃぶ。ラララン...

ざあ...

ざあ、ざあ...

ちよろちよろ。

水の味

焼酎、かんざらし、

そーめん、

具雑煮、ごはん、

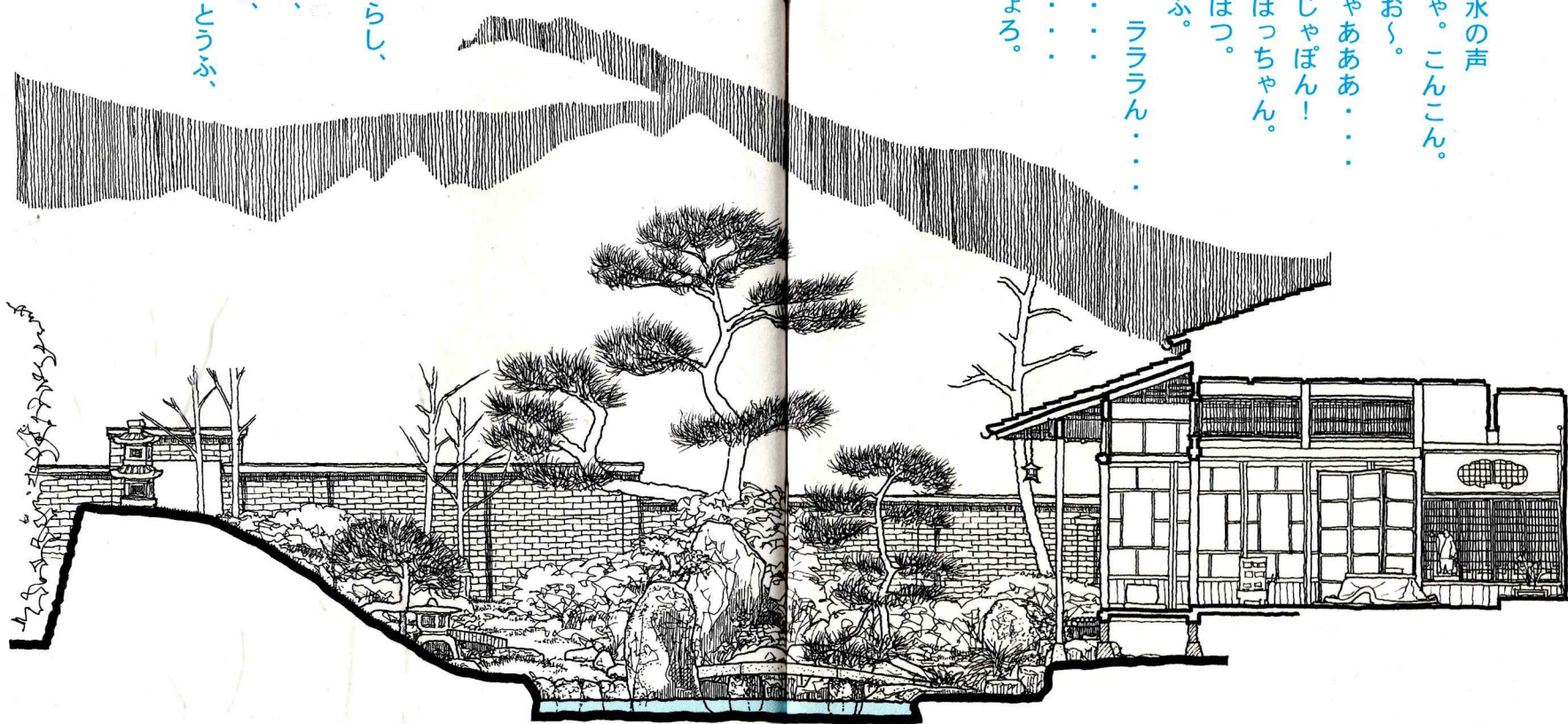
いぎりす、ちくわ、

桃かすてら、とうふ、

黒棒、水道水、

ざぼん漬け、

お茶、かき氷



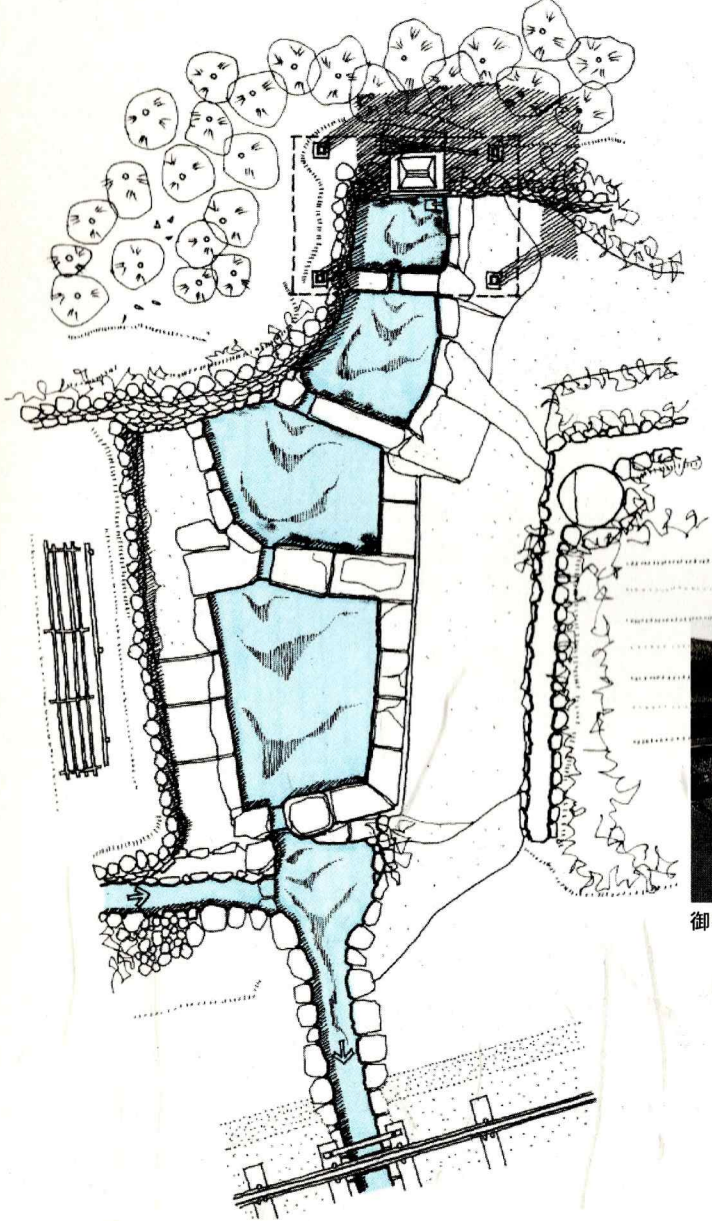
0 1m 2m

湧水亭(旧長池屋) / 中堀町

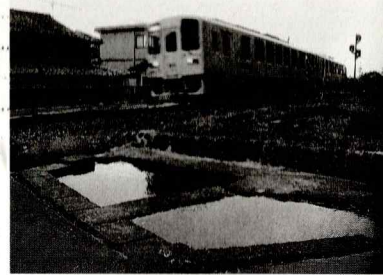
島原湧水さらく

トレイル

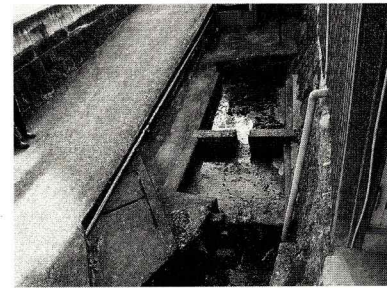
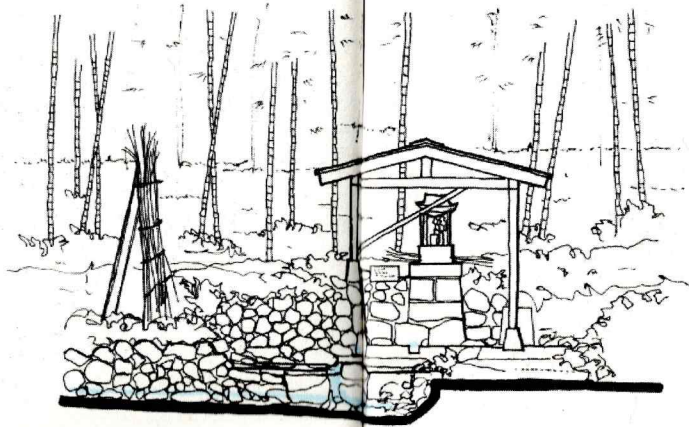
企画・発行：島原中心市街地街づくり推進協議会
 島原市高島二丁目七二一七（島原商工会議所内）
 TEL (〇九五七) 六二一二一〇一



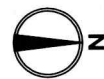
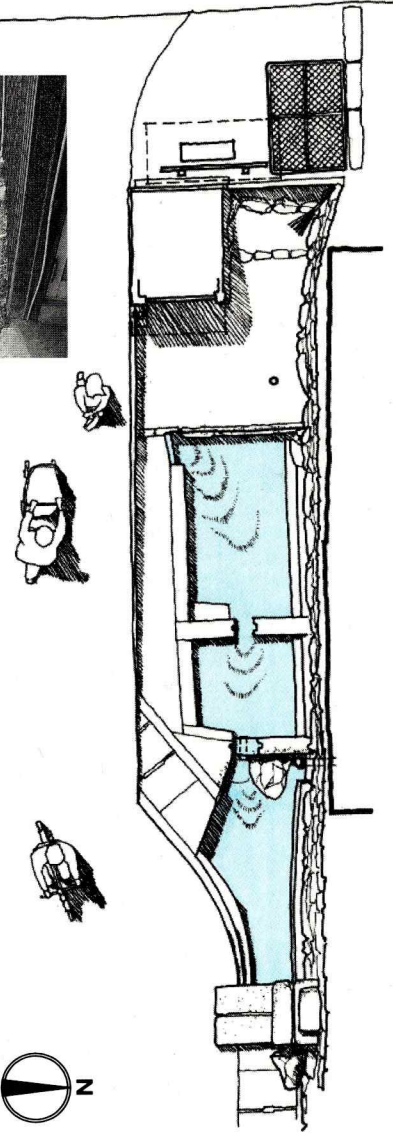
御手水町の共同洗い場／三会



0 1m 2m



下町の共同洗い場／三会

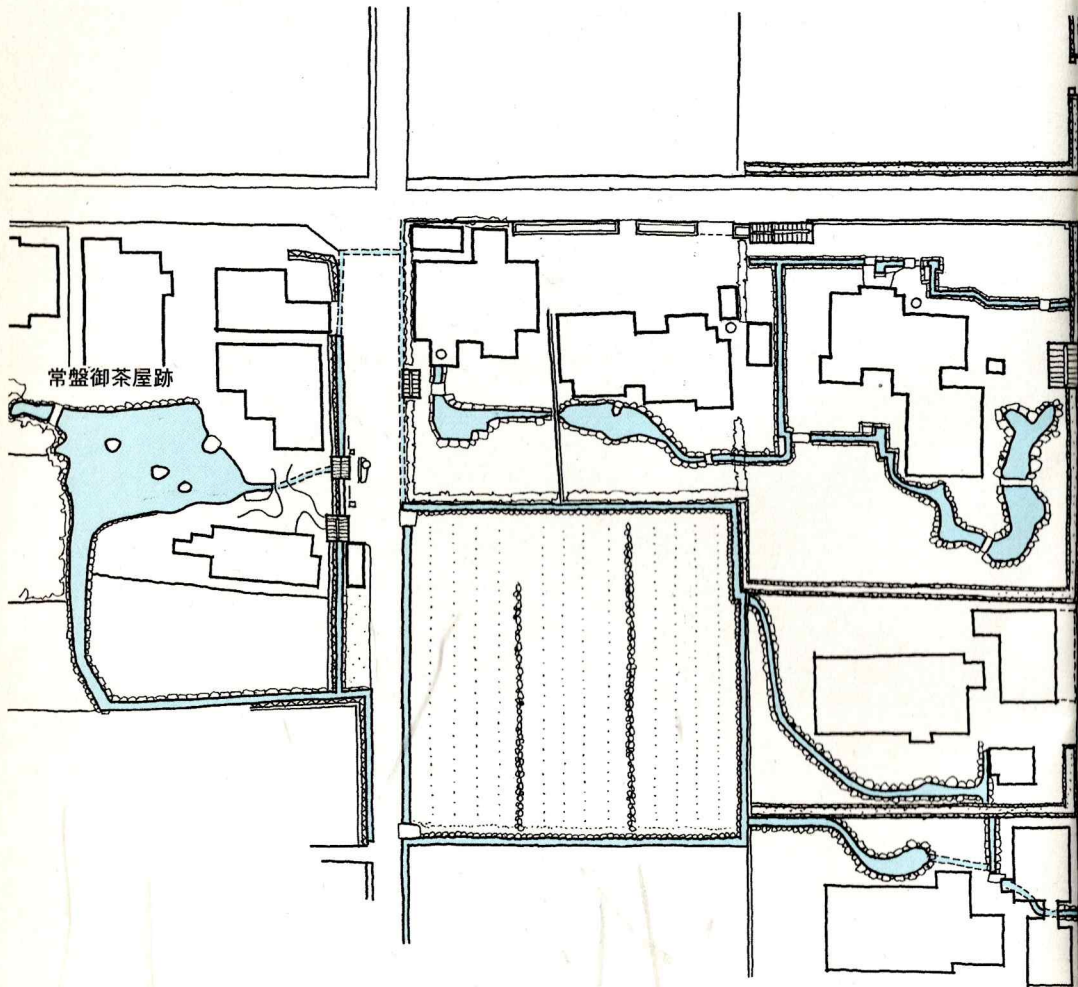


0 1m 2m

【^{みえ}三会の湧水点群・共同洗い場】
 三会台地の末端に湧水点が散在するが、
 その一つである。近くに島原街道があつて、
 藩主の参勤コースであり、多くの旅人が往
 来していた。「御手水」^{おてしずみ}の名がそれで生ま
 れた。近くに下町水源もあり、ずっと周辺
 の人たちの生活用水として、大切に使われ
 ていた。
 この由緒ある湧水も水道事業の進展と
 特に近年の硝酸性窒素の含有量が増加し
 たために、利用する人も少なくなつた。
 「この水は飲まないで下さい」の看板
 が痛々しい。

松尾卓次

御手水町と下町の共同洗い場／三会



田屋敷・常盤御殿跡／城内二丁目

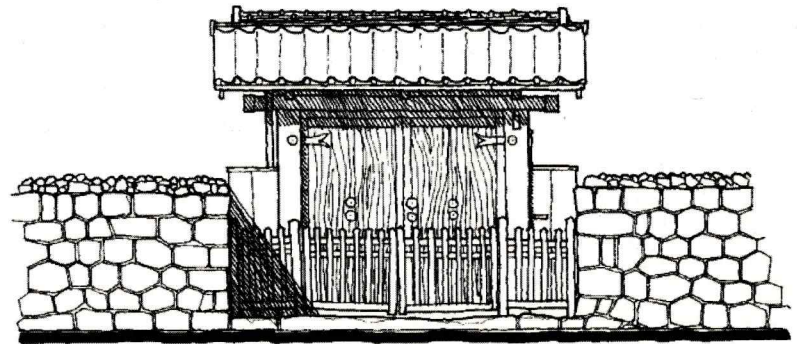


常盤御殿跡の量石 (はかりいし)

庭の池は、当時のま
まの姿をとどめており、
今も日に数百トンの清
水が湧き出している。
松本安大

江戸時代、島原城が築かれたころから清
水が湧き、藩主(殿様)の別邸として利用さ
れていた。松平氏が統治していた頃は、こ
の水で茶をたてるため、常盤御茶屋があっ
たとされ、その建物は天皇の寝所と同じ造
りであったと言う。市内の本光寺に建物の
一部が移されている。

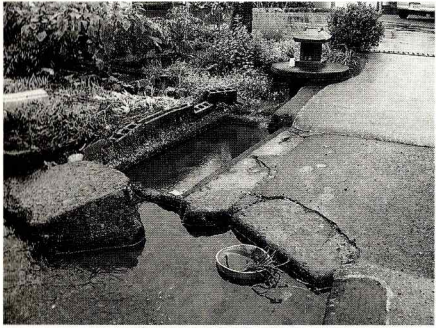
【田屋敷・常盤御殿跡】
たやしき ときわごんあと



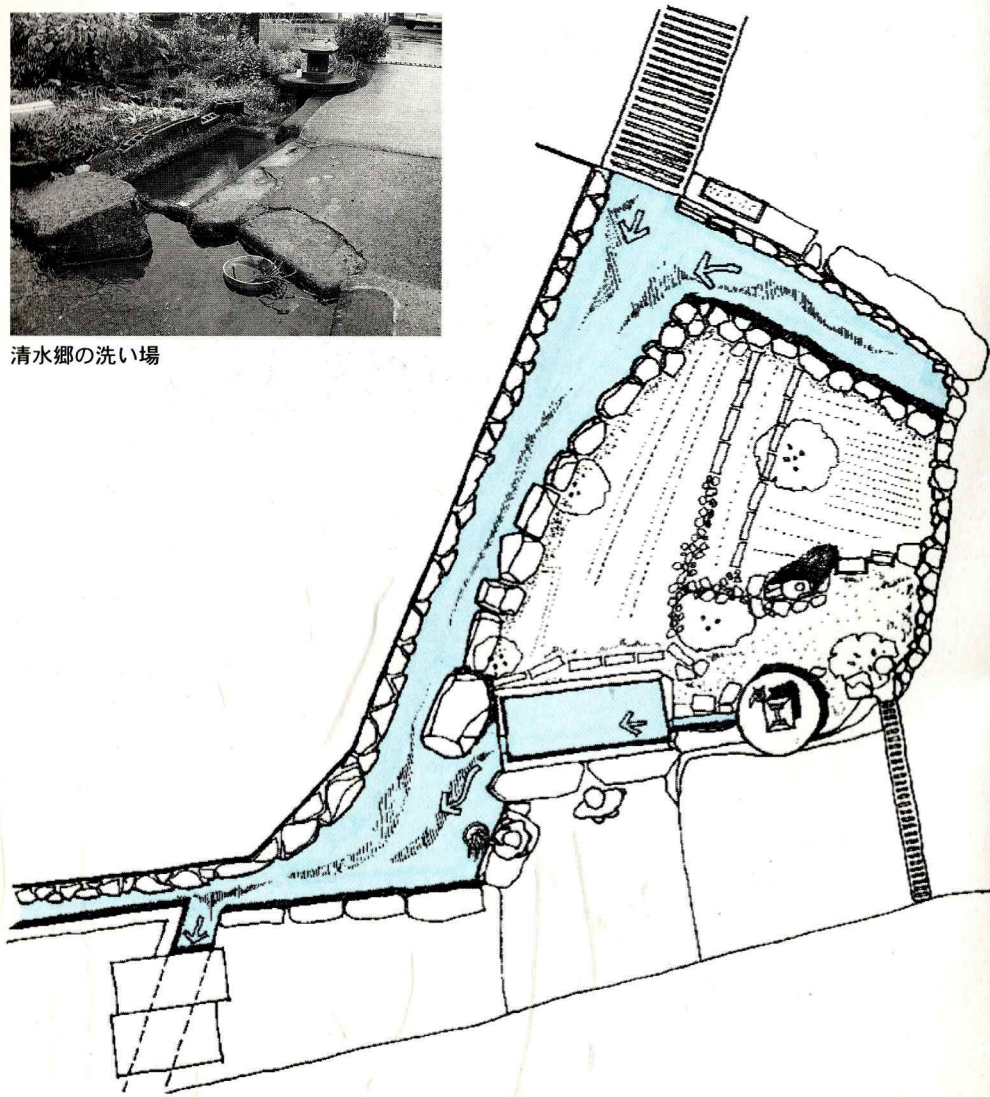
0 1m 2m

田屋敷・旧島原藩中老 小早川家の門

※今も住われています。マナーを守って迷惑のないように散策しましょう。



清水郷の洗い場



白土湖近くの水路の洗い場／上の原

【清水郷の洗い場】

島原城下町の水源の一つとして古地図や古記録にも残る。ここから猛島海岸へと流れ、近くの人家の生活用水であり、周辺の水田を潤していた。それで「清水郷」という地名がつけられた。昭和十一年建立の石塔には、土地所有者や土地面積などが刻まれ、三宝荒神祠が祭られて、大切に守られて来た。

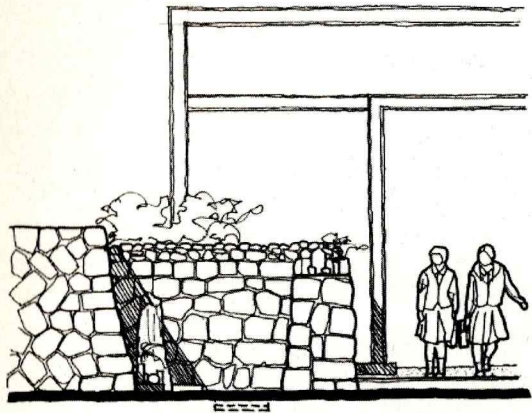
二、三十年前まではよく利用され、子ども水遊び場でもあった。今では湧水量も減り、すっかり忘れられているようだ。

松尾卓次

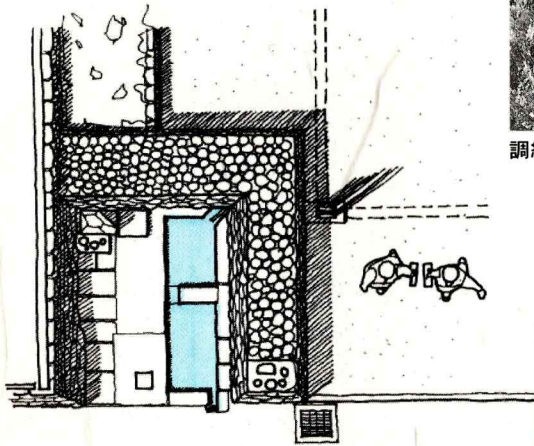
0 1m 2m



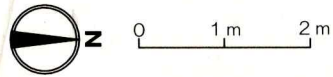
清水郷の洗い場／宮の町



調練場



調練場(馬の水呑み場)／先魁町



宇土の出口・本村商店の洗い場

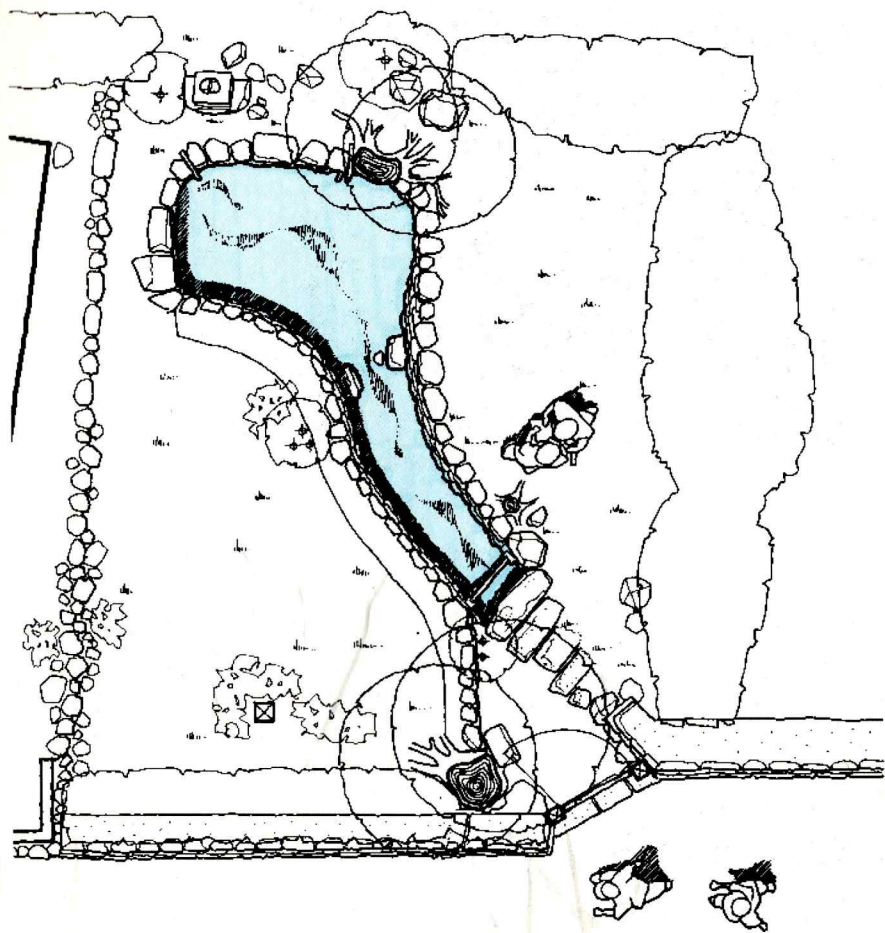
【調練場】
ちよれ倉

調練場とは幕末〜明治初年の西洋式軍事訓練場のことで、三の丸の一角に開かれた。開国後、島原藩でも軍事の近代化と国防のために、火縄銃にかえて鉄砲を購入したり、洋式訓練を取り入れた。その訓練は珍しく、注目をあびた。明治になると島原中学校の運動場となり、人家も近くに建って、地名だけが残った。

この水は三の丸御殿の堀へと流れ、その源は御用御清水や鉄砲町水路などの伏流水であろう。旧城内を通る馬の水飲み場ともなっていた。

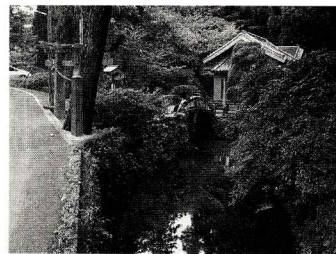
数年前、島原高校同窓会館建設時にリニューアルしたが、今でもその歴史を伝えている。

松尾卓次

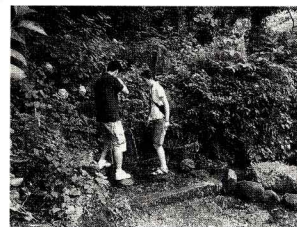


0 1m 2m

古丁の水源と武家屋敷／古丁



江里神社
水量は豊か、神社裏手の巨大なクスの根元から湧く。



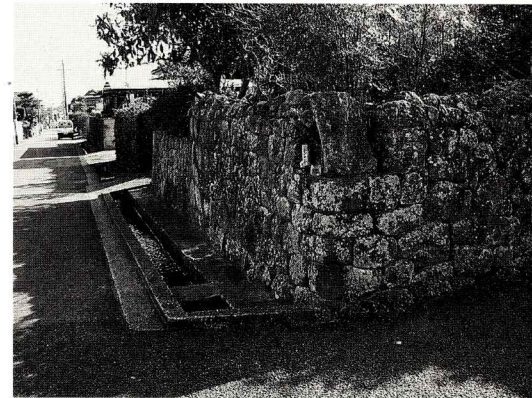
焼山湧水
寛政の大変時に流れ出た溶岩の末端から湧く。



宇土の出口
豊かな湧水は灌漑用水、そして隣の商店のそうめん流しやニジマスの養殖に。

【古丁ふるちやうの水源と武家屋敷ぶげやしき】
町はずれに清水の湧く水源がある。長年、古丁一帯の生活用水として使用されてきた。
松倉重政の島原城築城時に、家臣団に屋敷を与え、この一帯を下土屋敷街とした。それが今も残る鉄砲町である。東側の中の丁、下の丁の水源は北方二キロにある杉谷・水の権現より引き、今も武家屋敷水路として伝わる。
古丁水源はその時代より利用されて、大切な命の水であった。古い石垣の残る屋敷のそばを清水が流れ、街にうるおいを与えている。

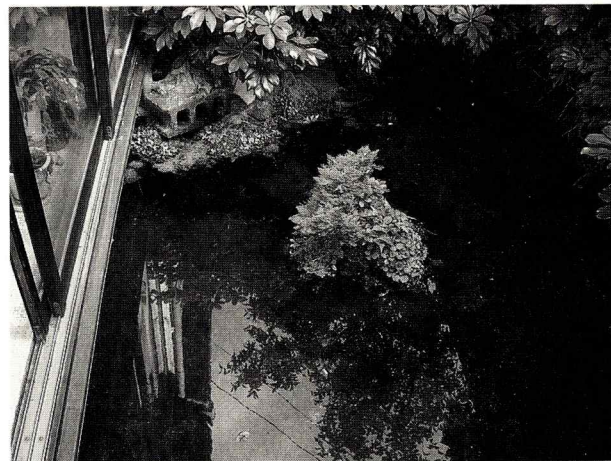
松尾卓次



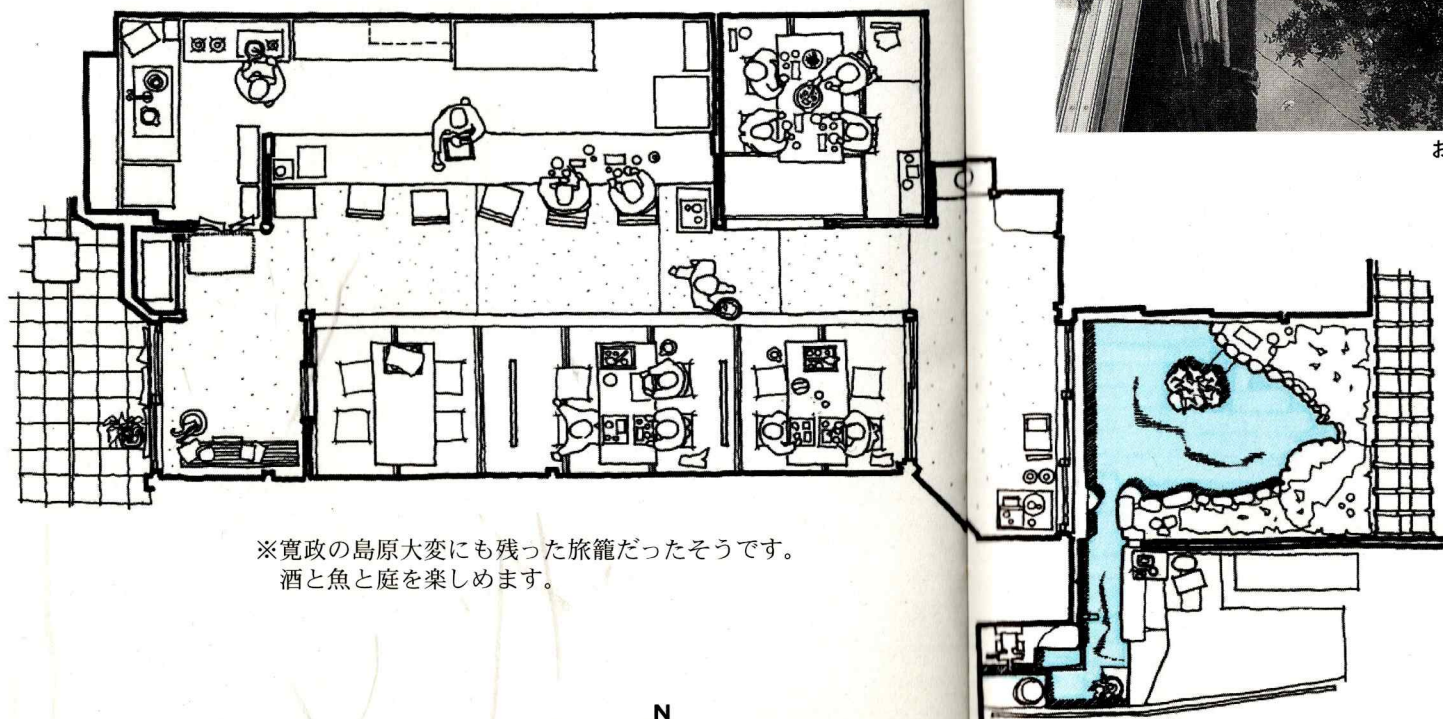
古丁の水神様(武家屋敷)



洗い場と水神様



お店の奥の澄みきった池



※寛政の島原大変にも残った旅籠だったそうです。
酒と魚と庭を楽しめます。

—(はじめ)/万町

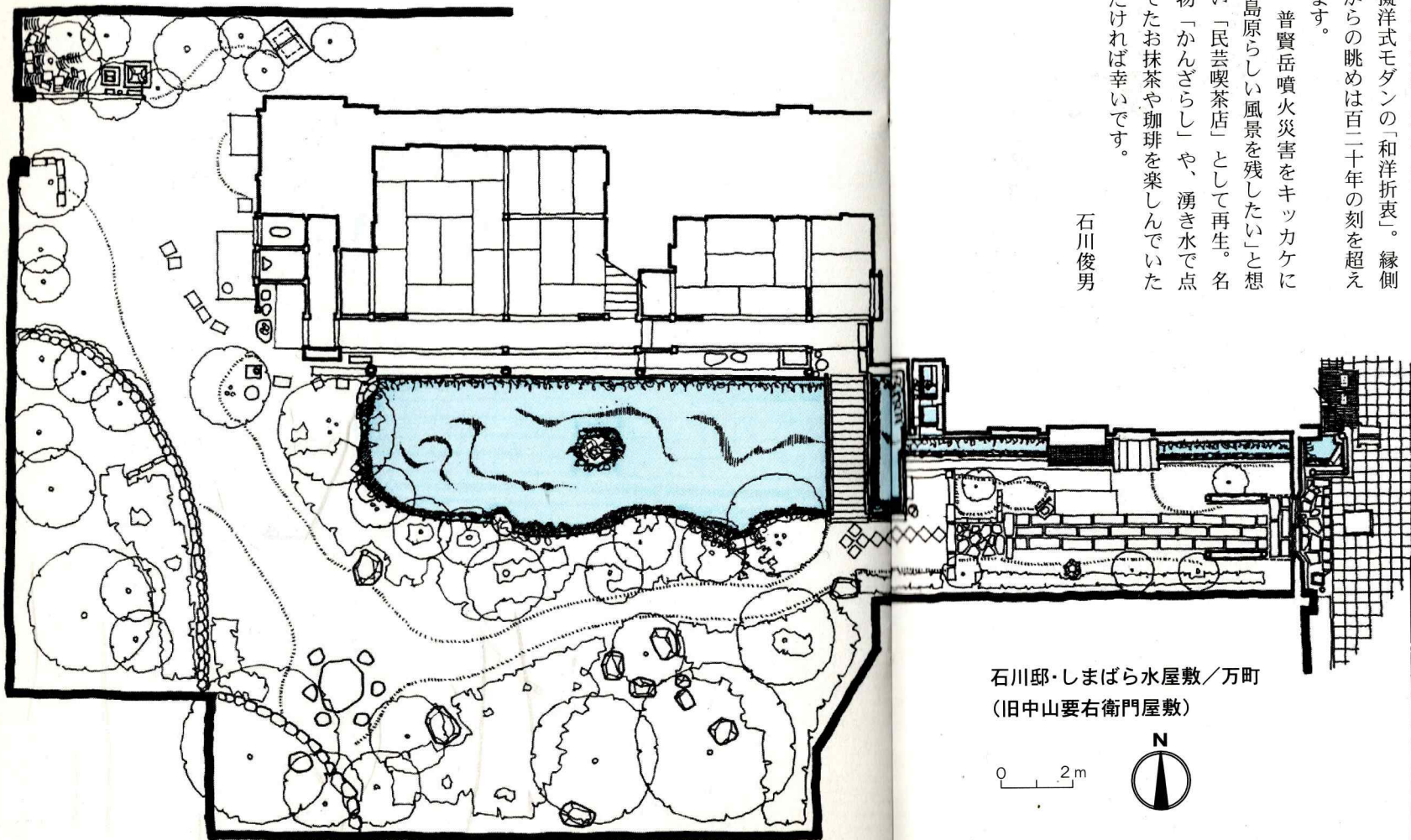
0 1m 2m



【居酒屋 一(はじめ)】
万町アーケードの道路両脇に流れる湧水の水路は、途中二ヶ所で「量石(はかりいし)」にて分水されており、その「量石」を触ることができるのは代々「水奉行」と呼ばれる町内会の顔役の方だけなんです。その水路を流れる湧水を、各家々が引き入れて、洗い物など生活用水に活用していました。現在、魚料理を主にした居酒屋「一(はじめ)」さんもその一つ。
今も店の奥に小さな池があり、横に祀られた水神様がのんびりと泳ぐカワムツたちを眺めています。

石川俊男

※この湧水で作ったそうめんを夏冬楽しめますが
混んでいると、注文できない時があります。



石川邸・しまばら水屋敷／万町
(旧中山要右衛門屋敷)

0 2m



【万町アーケードの水屋敷】

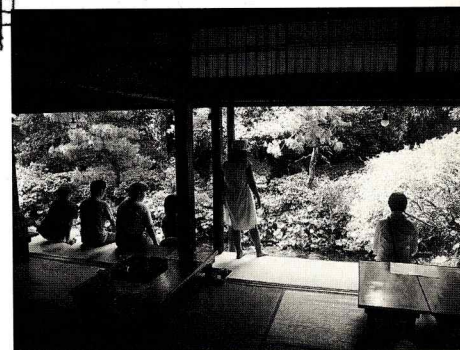
アーケード万町の道路両脇にある水路の水源が「しまばら水屋敷」の湧き水です。

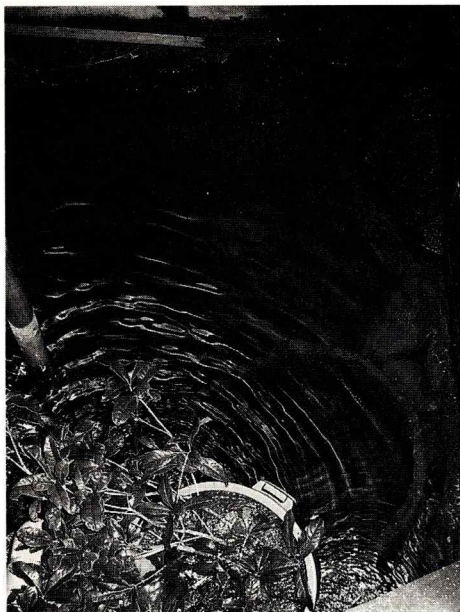
一日四〇〇〇トン（一秒間五〇リットル）の湧水量があり、昔から万町に住む方々の生活用水に活用されています。

明治建築の木造屋敷は、二階が擬洋式モダンの「和洋折衷」。縁側からの眺めは百二十年の刻を超えます。

普賢岳噴火災害をキツカケに「島原らしい風景を残したい」と想い「民芸喫茶店」として再生。名物「かんざらし」や、湧き水で点てたお抹茶や珈琲を楽しんでいたければ幸いです。

石川俊男





水神様、三宝荒神（火の神といわれています。）をお祀りしてあり、今でも毎日、掃除をしています。

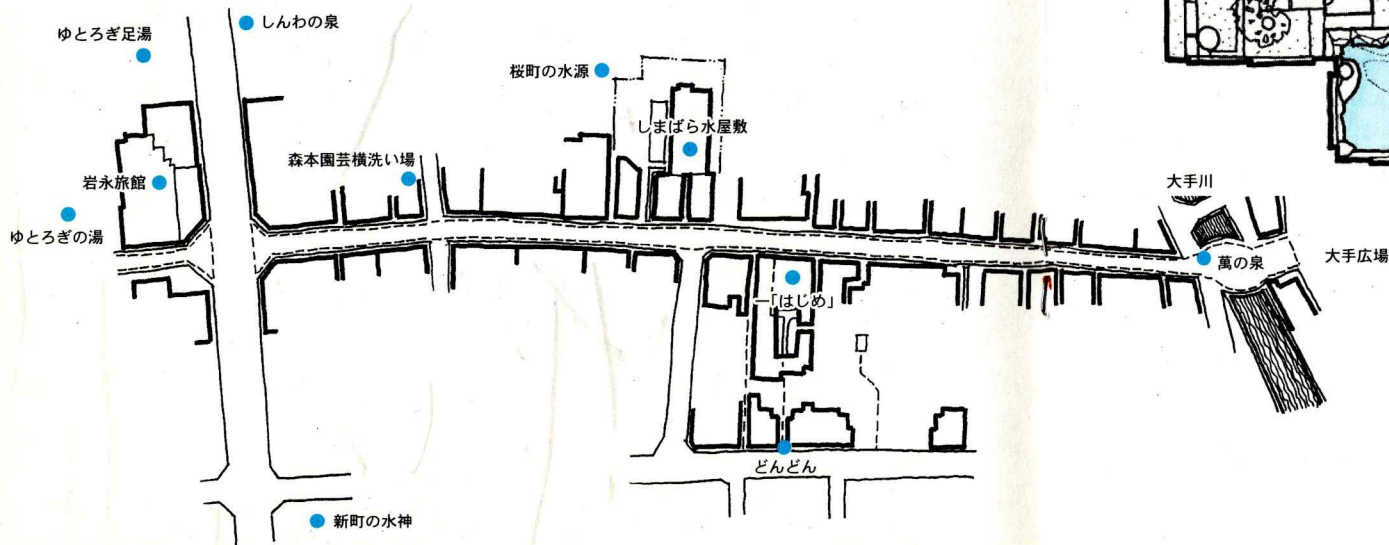
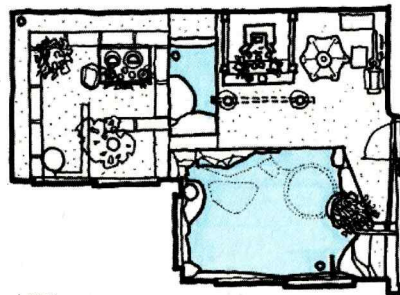
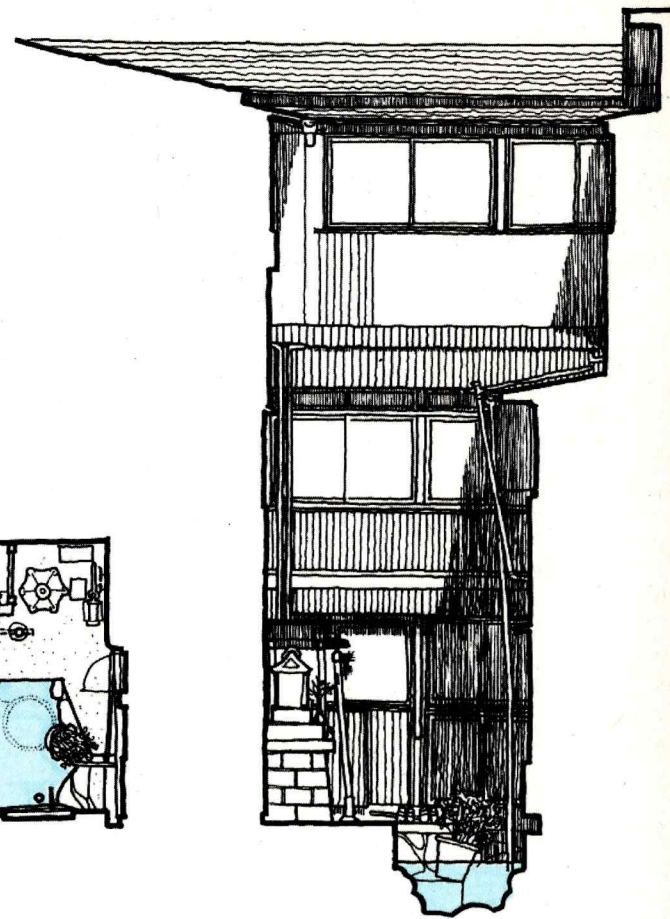
商家にかぎらず、市内のあちらこちらで、こうした湧水地に、水神や道祖神の石碑や小さな社（やしろ）を見ることが出来ます。

松尾ふみ子

【お稲荷様、水神様、三宝荒神を祀る、岩永旅館の泉】

この地で、先祖は明治のころ肉屋を、大正のころは食堂を営んでいました。昭和となって、旅館を開業する時、庭に新しい井戸を掘り使いはじめたものです。

湧水地は神聖な場所なので、お稲荷様、

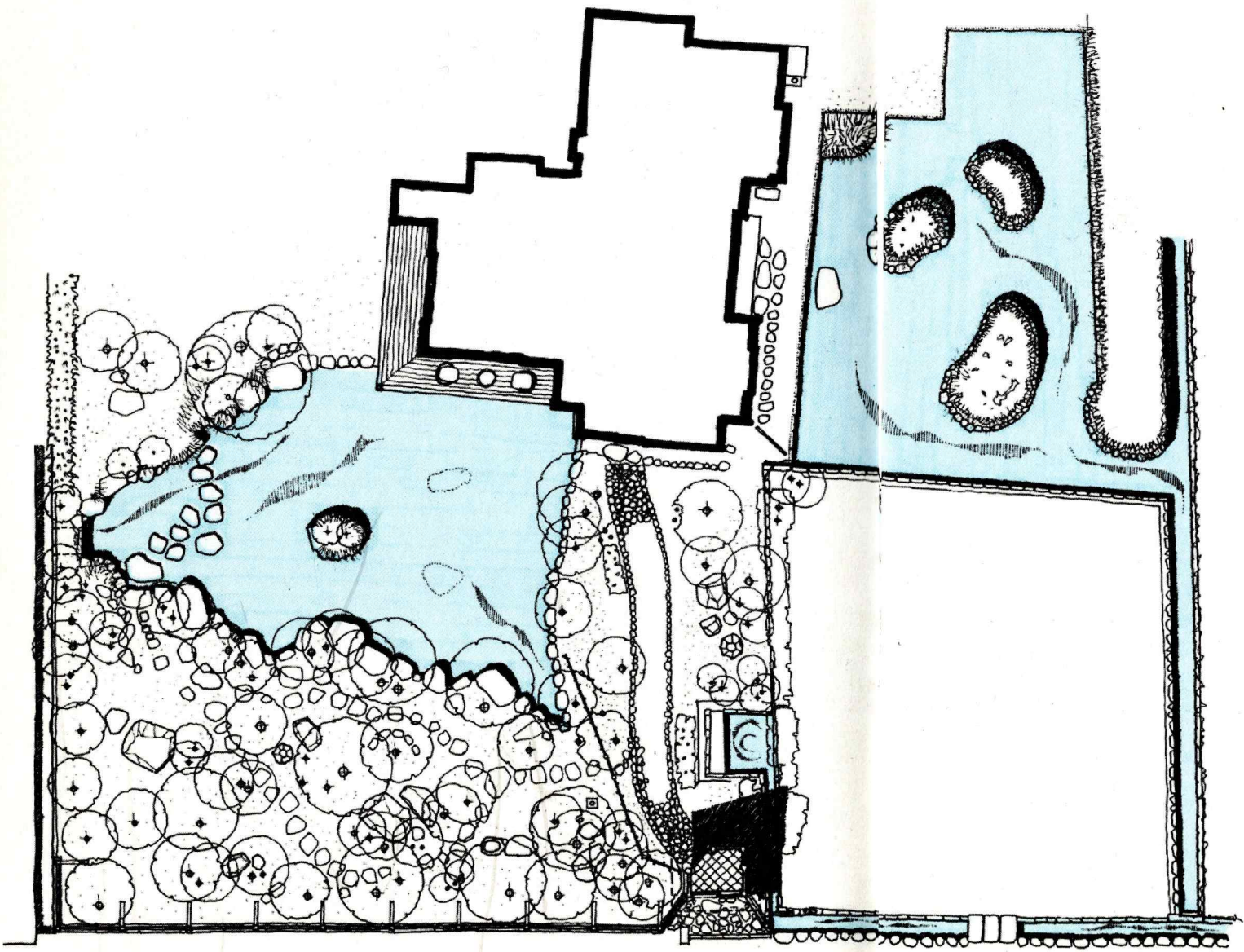


※島原の海・山の幸、お食事、お泊りでゆるりとご覧下さい。

岩永旅館の泉／堀町

0 1m 2m

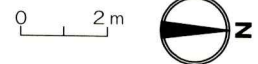




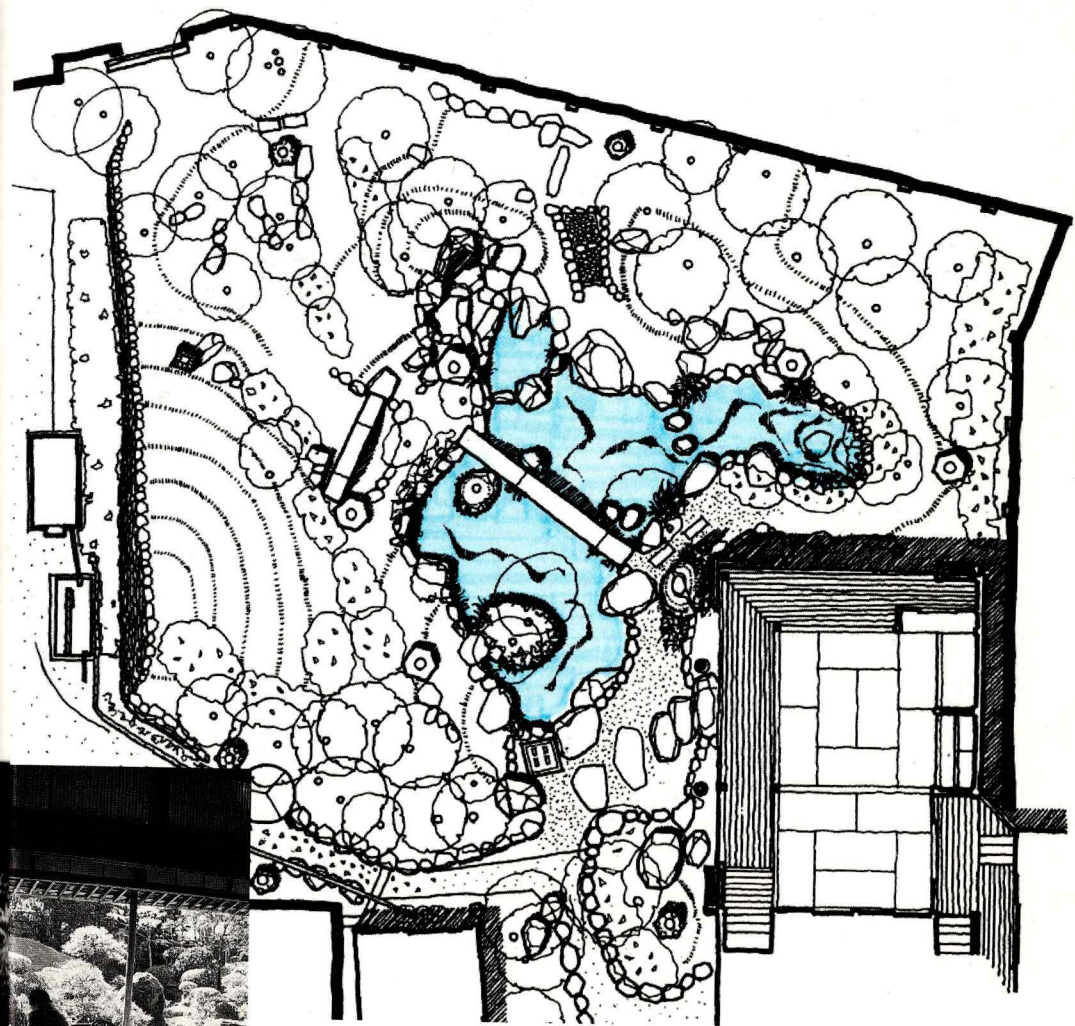
【伊東邸いとどうてい（四方を見渡す四明荘しめいそう）】

伊東邸は、湧水を庭に取り入れた美しい池泉式庭園を持つ島原特有の屋敷の一つ。昭和初期、伊東氏の依頼で久留米の禅僧が作庭したといい、数奇屋風の屋敷から四方が見渡せるように作られたので「四明荘」と名付けられた。主屋は大正初期の建築で、後、住居とするため増築し今のような姿の屋敷になった。湧水は、敷地の東側と北側の、二つの池の他に、入口の門をくぐったすぐ右手に小さな石組みの池がある。島原特有の湧水を活かした庭園文化が評価され、平成二十年国の登録記念物となった。

土橋啓介



伊東邸(四明荘)／新町二丁目



湧水亭(旧長池屋) / 中堀町 0 2m



【長池屋の庭を守ってきた「ある意味」】

六〇余年住み慣れた家を離れ、改めて座敷と庭を思い返してみると、小さな町とは言え商店街の真ん中に二〇〇坪程の庭に飲料が出来る湧水が有る事は「ある意味」贅沢なものだったと思います。「ある意味」と言ったのは、家業が呉服屋だったので「座敷と庭」はお客様の為の場所だと思って生活していたからです。小学生の自分には築山に登って遊んでは叱られ、池の鯉を釣っては叱られたりしましたが自分の物として遊んだのはその頃までです。

「火山都市国際会議」の時には「こんな近くに、こんな庭が」とお褒め戴いたのが大変嬉しく、「お客様の為の座敷と庭」を守って来れた事にやっと誇りを持つことが出来ました。

次のオーナーも座敷と庭は残して市民に開放したいとの意向なのでこれからは手入れのボランティアでもやろうかと考えています。

長池要七

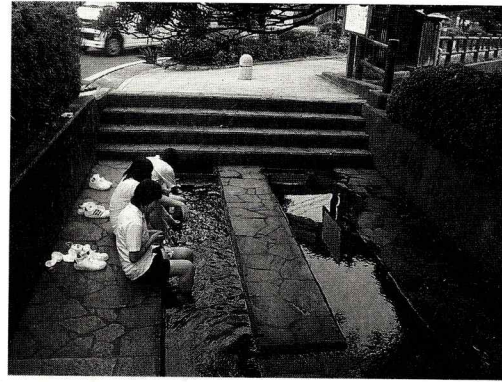
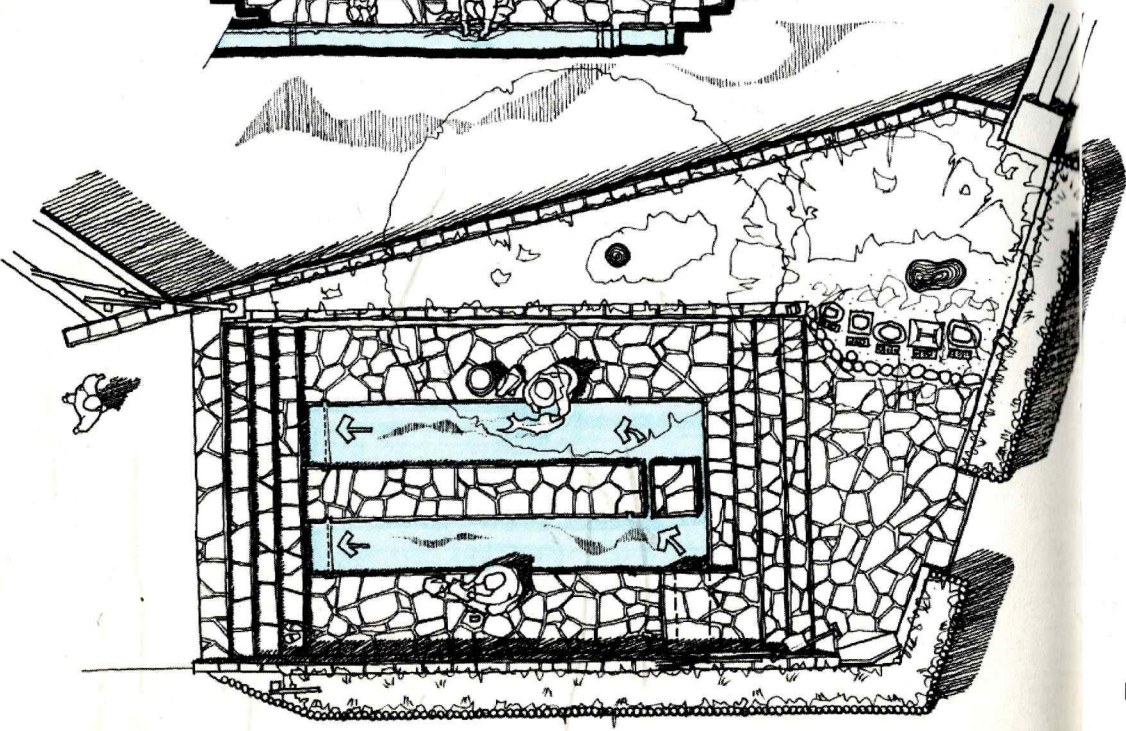
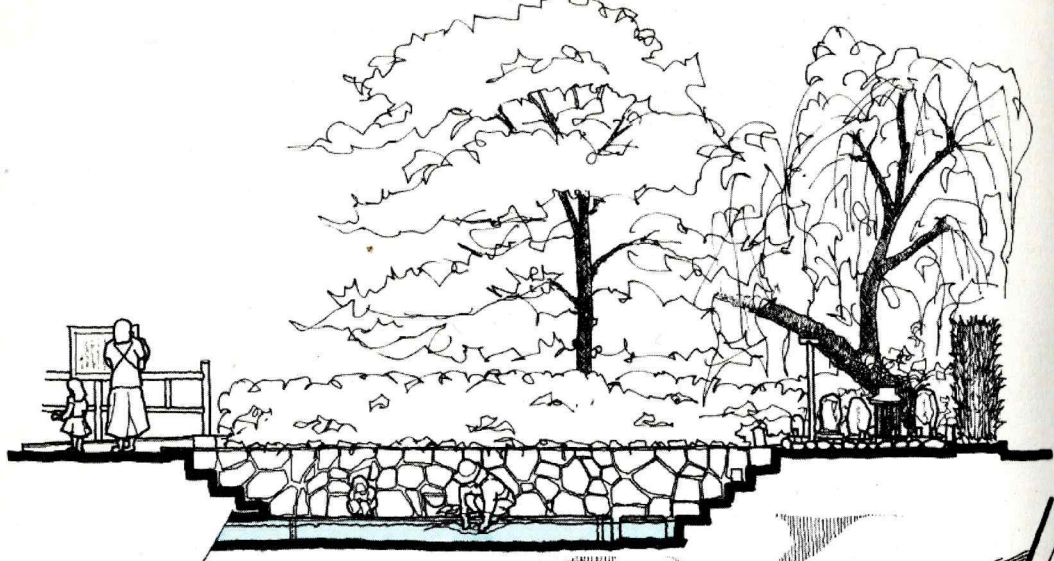
【湧水亭として残す】

商店街の中央に位置する当屋敷は、書院づくりで大正年間の建築といわれています。呉服屋の店舗兼住居であり、着物文化が華やかな時代に、商いがまとまった時の接待やお見合いの場所としても使われていたようです。

人間に欠かせない泉は、魂が輪廻する場所の意味があるそうで、『まちなかで暮らす』その豊かさを演出する空間として、島原に残すべき遺産だと思います。

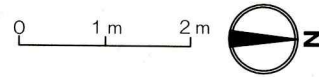
陽のあたる縁側に座り、湧水が苔生した岩肌を流れる水音は、万人に癒しの時間を与えてくれるでしょう。

生田忠照

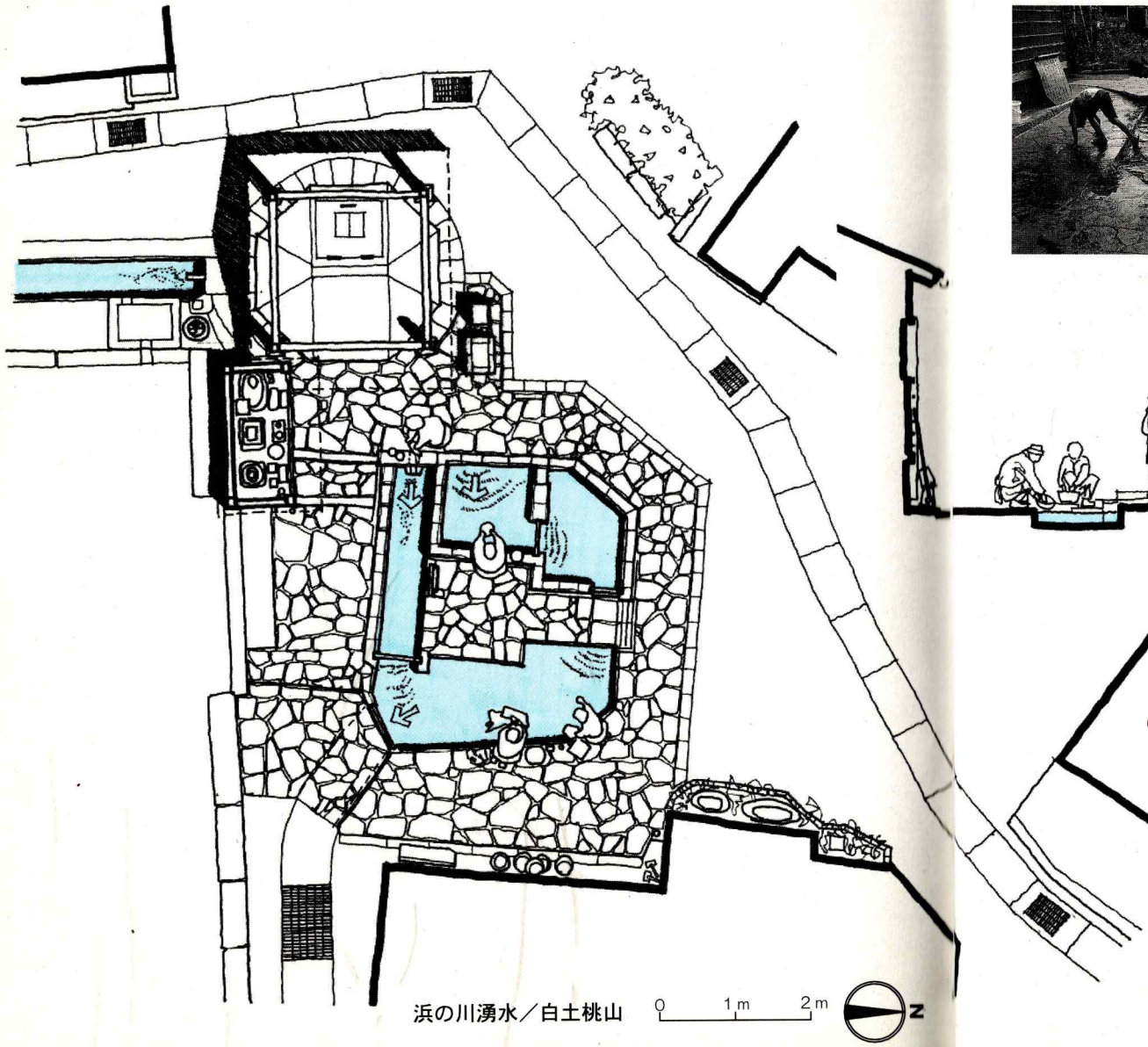


【白土湖・桶川の洗い場】
しらちこ おけがわ
 白土湖の北の入口にある洗い場は、六角井戸を水源として白土湖に流れこみます。今も野菜の洗い場、そして洗濯を通して朝夕は主婦の社交場となっています。夏は木陰に涼を求めて来る人も多く、自然のクーラーとして重宝がられています。絶えることもなく湧き出るこの水源をずっと守り伝えたいものです。

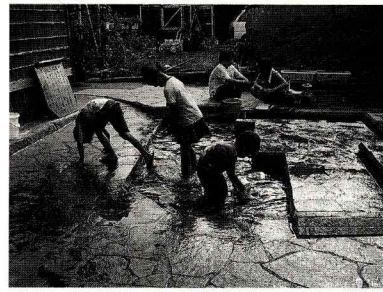
稲田勝裕



白土湖・桶川の洗い場／白土町



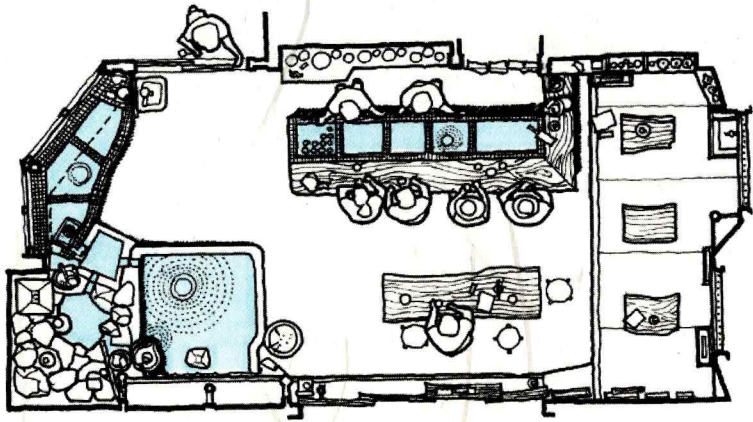
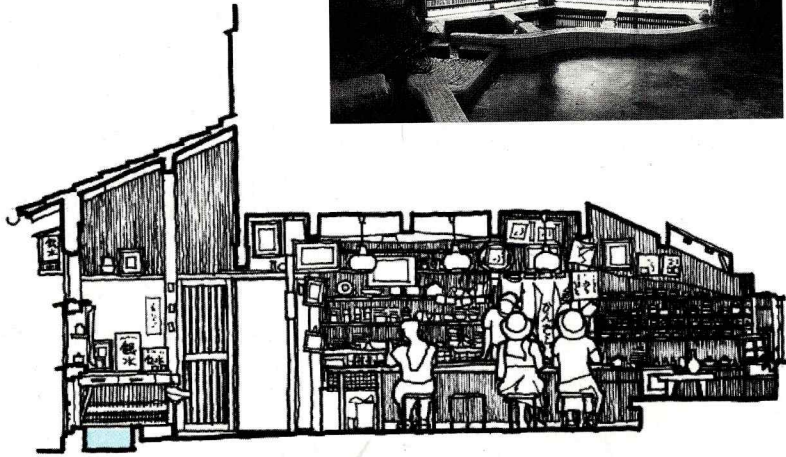
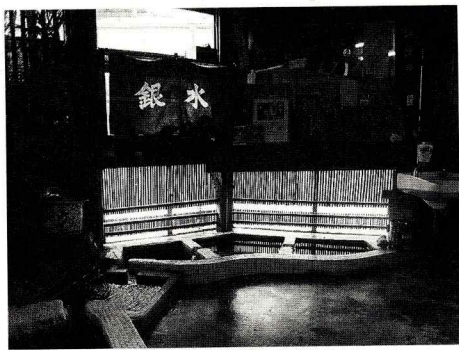
浜の川湧水／白土桃山



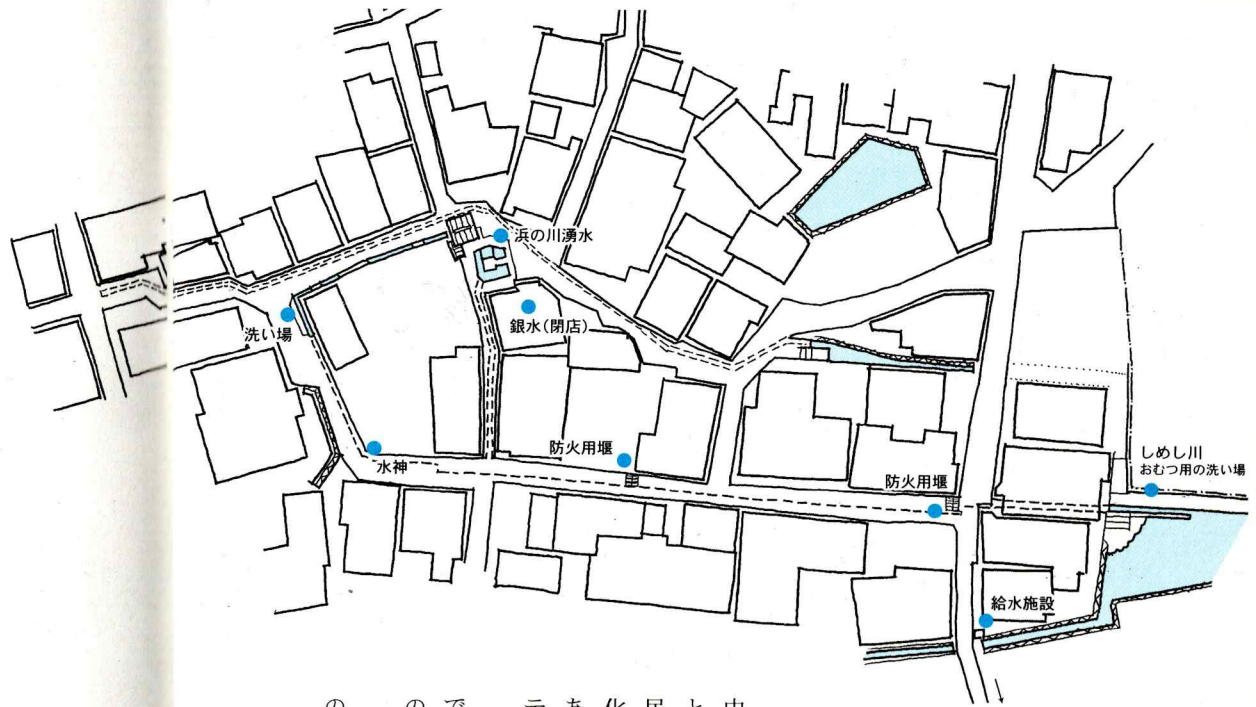
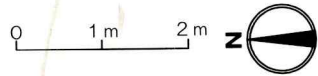
【まゆやま眉山大崩壊と浜の川湧水】
 二百年前は浜の川は海の中の湧水であり、潮が干潮になった遠浅の海岸を川になって流れていた。眉山の南半分が爆発で崩壊して、霊丘公園の山々まで埋まった。元の海岸線であった白土町から漁師達が移転し、白土船津となり、海岸に川が流れていたから人々は浜ん川と呼び、この通称が今日まで続いている。

そばの銀水、町田、尾崎、登本と四軒が「カンザラシ」「トコロテン」等の店だったので井戸より水を引き、「ラムネ」を作っていた牧尾店などにも水を引いた。地区のほとんどは漁師で、漁に出るときは必ず水を瓶に入れて仕事に出たが、暑い夏は特に一升瓶に入れて船底に置くと冷えて何ともいえない味だったとか。

吉田芳南



浜の川・銀水(閉店) / 白土桃山

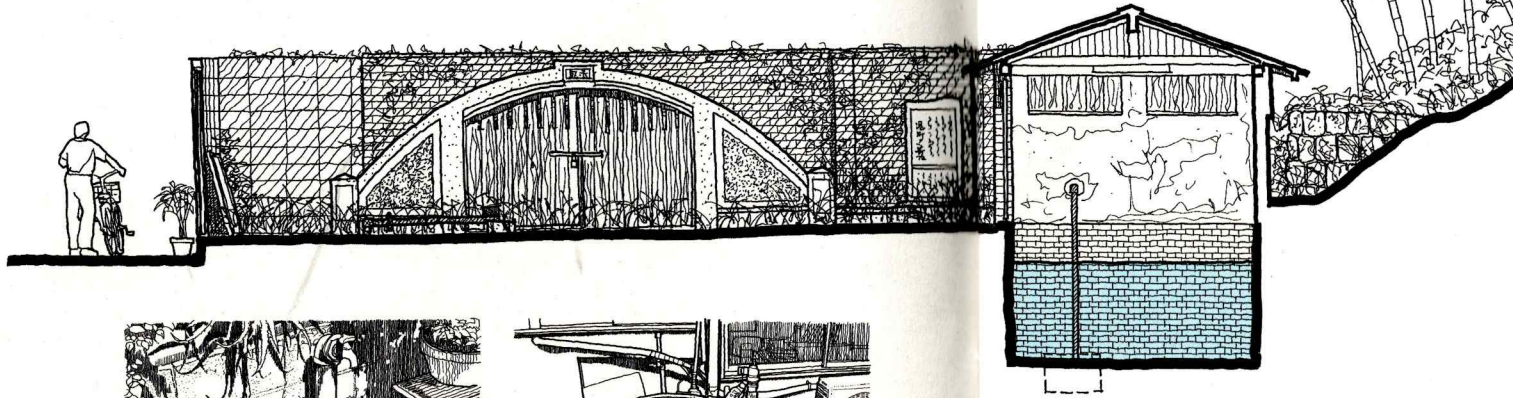


【銀水ぎんすいをもう一度】
 浜の川にある「銀水」は、かつて女主人・中村ハツヨシ(故人)さんの気さくな人柄と、風情ある建物や周りの湧水と共に、市民に愛され、全国から多くの観光客や文化人が訪れていた。店内には湧水が引いてあり、名物「寒ざらし」やラムネ、トコロテンなどが冷やしてあった。
 主人が亡くなって店は閉鎖されたままです。最近、地元の青年会議所によって夏の1週間だけ開放されるようになった。
 「銀水」をもう一度！ が、市民や全国のファンの希望である。

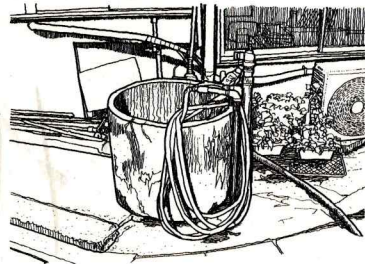
猪原信明



湊新地・かつての旅館の案内看板



湊新地の家の前に引かれた水道

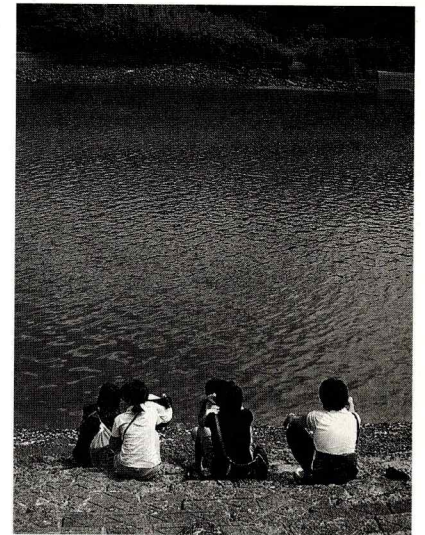


湊新地の水道施設

水源・貯水槽／西八幡町

※水源をきれいに保つため、
公開しておりません

0 1m 2m



湊新地・かつての河岸の石段

【湊新地の水道施設】
みなしなち

明治三年に造成された湊新地という町で暮しはじめた人々が、約一キロ離れた場所に発見した湧水源で、明治一四年に完成した水道施設。かまぼこ型の貯水槽と湧水源があります。この用水を維持するため、百数十年のあいだには土地を購入したり湧水池や配管などを改修しました。現在も雑用水として使われています。日本で一番古い民間の共同水道施設です。

末永和弘

【安中の再生・われん川】

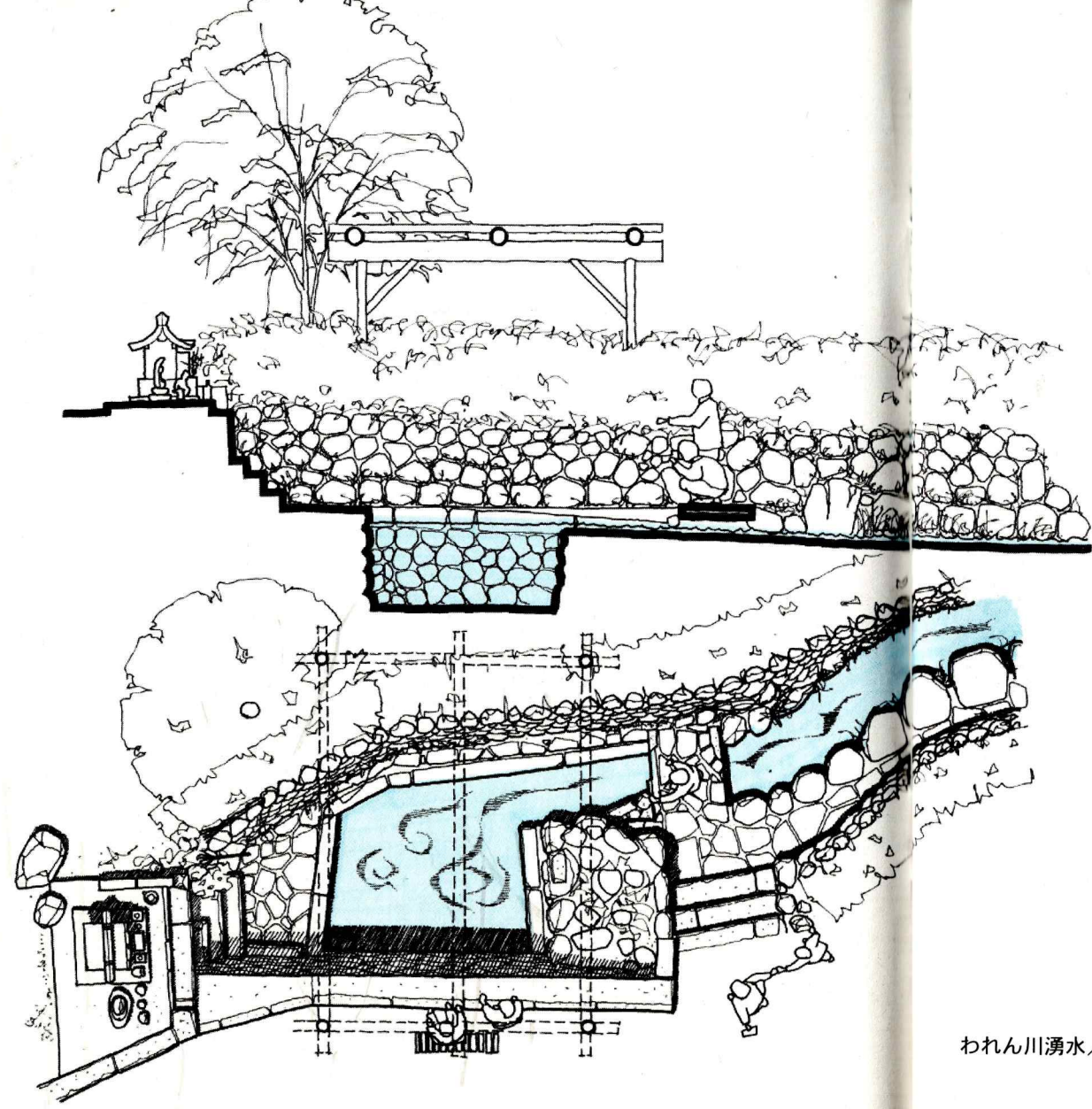
一七九二年(寛政四年)火山噴火により各地に多数の地割れが生じ、地下水がわき出てきました。人々は生活に産業に不可欠の水源として大切に守り続けてきました。

平成二年、普賢岳が一九八年ぶりの眠りから目覚め、五年間に及ぶ噴火をくりかえしました。

平成三年六月三〇日、大規模な土石流がこの地を襲い、一面巨石の海となりました。住民は復興安中の原点として、われん川の再生なくして、安中の再生なしと官民一体となり、この地が復興しました。

この源流が子々孫々に至るまで清く流れることを願っています。

大町辰朗



われん川湧水/鎌田町

